

角淵由英（つのぶちよしひで）氏開発「生成 AI 特許分析 GPTs」に関する専門家報告書

Gemini Deep Research

I. エグゼクティブサマリー

本報告書は、弁理士であり理学博士でもある角淵由英（つのぶちよしひで）氏によって開発された「生成 AI 特許分析 GPTs」、正式名称「生成 AI 特許情報分析」について詳細な分析を提供する。角淵（つのぶち）氏の特許実務家および AI 技術の専門家としての豊富な経験は、このツールの開発背景として重要である。「生成 AI 特許情報分析」は、ウェブ情報と特許情報を反復的に参照し分析することで高精度なリサーチを可能にするエージェント型 GPT として設計されている¹。

このツールは、知的財産専門家に対し、分析の深化と業務効率の向上といった実質的な利益をもたらす可能性を秘めている。一方で、その効果的な活用には、AI による出力に対する専門家による批判的な評価と検証が不可欠である。角淵（つのぶち）氏のようなドメイン専門家による特化型 GPTs の登場は、汎用 AI アプリケーションから、より複雑な専門業務のニーズに応える AI ツールの成熟を示唆している。この動向は、専門サービス分野における AI の将来が、単一の万能型ソリューションではなく、特定の目的に特化した多様なツール群によって形成されることを予見させ、専門家にはこれらのツールを使いこなす能力が求められるようになるだろう。

II. 序論：特許分析における AI の進化

特許分析は、従来より情報過多、特許言語の複雑性、多様な情報源の必要性といった課題に直面してきた³。これらの課題に対応するため、人工知能（AI）、特に生成 AI の活用が急速に進んでいる。生成 AI は、検索精度の向上、複雑な文献の理解促進、技術動向の特定といった面で、特許分析の革新に貢献する可能性を秘めている⁴。

このような背景の中、日本の特許法と AI 開発の接点において注目されるべき人物が、角淵由英氏である。同氏は、特許実務の現場で AI 技術の応用を積極的に推進している。本報告書の目的は、角淵（つのぶち）氏が開発した「生成 AI 特許分析 GPTs」、具体的には「生成 AI 特許情報分析」と名付けられたツールについて、その機能、技術的背景、および特許実務における意義を深く掘り下げて分析することにある。

角淵（つのぶち）氏のような専門家によるツールの開発は、特許情報の量と複雑性が増大し、従来手法では十分な分析が困難になっている現状への直接的な応答と言える。このことは、知的財産関連の組織や部門が競争力を維持するために、AI 技術の導入・活

用が不可避であることを示唆している。特許専門家の役割も、単なる調査・分析者から、AI が生成した洞察の戦略的監督者・検証者へと進化していくことが予想される。

III. 開発者プロフィール：角淵由英（つのぶちよしひで）氏

「生成 AI 特許情報分析」の開発者である角淵由英（つのぶちよしひで）氏は、知的財産分野、特に AI を活用した特許調査において顕著な活動を見せる専門家である。

A. 資格および所属

角淵（つのぶち）氏は、弁理士としての資格を有し、理学博士の学位も保持している⁶。この二つの専門性は、法律実務と科学技術への深い理解を両立させている点で特筆に値する。現在は、弁理士法人レクシード・テックのパートナーを務めており⁶、同事務所が技術特化型であることは、氏の専門性を裏付けている。さらに、特許検索競技大会実行委員会の委員長という要職にもあり⁶、特許調査分野における指導的立場と卓越性への貢献を示している。

B. 専門性と業績

角淵（つのぶち）氏の専門分野は多岐にわたるが、特に特許調査、中でも侵害予防調査（FTO 調査）および無効資料調査において豊富な経験を有する⁷。その技術的知見は、化学、食品、医薬品、バイオテクノロジー、機械、IT といった広範な分野をカバーしている⁸。

同氏は、『侵害予防調査と無効資料調査のノウハウ』の著者であり⁹、この分野におけるソートリーダーシップを確立している。また、「パテント」誌や「知財管理」誌といった専門誌にも、特許調査や分析に関する論文を多数寄稿している⁹。

C. 知的財産分野における AI への関与

角淵（つのぶち）氏は、生成 AI の特許実務への応用に関して、講演や執筆活動を積極的に行っている⁹。これには、特許調査や文献読解における AI 活用が含まれる。注目すべきは、同氏が「生成 AI 特許情報分析」に加え、「生成 AI 先行技術調査 GPTs」や自身の著作に基づく GPT など、複数の特許実務用 GPTs を開発・公開している点である¹。また、特許調査ツール「サマリア（Summaria）」と生成 AI を組み合わせた活用法についても言及している⁵。

角淵（つのぶち）氏が単なる AI の学術的探求者ではなく、日々の実務で直面する課題を解決するためにツールを開発している実務家であるという事実は、氏が開発した

GPTs に大きな信頼性と実用性を与えている。弁理士としての実務経験から生まれるニーズが、ツールの設計思想に反映されていると考えられるからである。さらに、理学博士としての経歴と特許法の専門知識の融合は、発明の技術的内容と法的保護の枠組み双方を深く理解していることを示唆する。この総合的な視点は、効果的な特許分析ツールを開発する上で極めて価値が高い。このような背景を持つ専門家によって開発されたツールは、単に技術的または法律的観点のみから開発されたツールと比較して、より特許専門家の機微なニーズに応えるものとなる可能性が高い。

IV. 「生成 AI 特許情報分析」の概要：角淵（つのぶち）氏開発の生成 AI 特許分析 GPTs

角淵由英（つのぶちよしひで）氏が開発した特許分析用 GPTs の中でも、中心的な存在として注目されるのが「生成 AI 特許情報分析」である。

A. 正式名称と開発経緯

この特許分析に特化した GPT の正式名称は「生成 AI 特許情報分析」（Generative AI Patent Information Analysis）である¹。同氏は、「特許実務 GPTs 集」として、他にも複数の GPTs を開発・共有しており、これは GPT 技術を様々な特許関連業務に活用しようとする広範な取り組みの一環であると言える²。

B. 主要目的と対象ユーザー

「生成 AI 特許情報分析」の主な目的は、ユーザーによる簡単な指示に基づき、ウェブ情報と特許情報を体系的に調査・分析することで、高精度なリサーチを実現することにある¹。これにより、単なる検索を超えた深い理解と、より正確な分析結果を得ることを目指している。

対象ユーザーとしては、弁理士や企業の知財担当者といった特許専門家、IP アナリスト、研究開発者など、発明の深い分析や広範な文脈理解を必要とするあらゆる個人および組織が想定される。

C. 基本コンセプト：エージェント型 GPT モデル

本ツールは「エージェント型 GPT」として説明されている¹。これは、GPT がユーザーの指示を解釈し、自律的に情報収集や分析タスクを遂行する能力を持つことを示唆する。

具体的には、「簡単な入力」または「簡単な文章」をユーザーが提供すると、GPT が

「段階的に調査・分析」を進める¹。その際の特徴的な機能として、「特許と Web 情報を往復しながらブラッシュアップする」という点が挙げられる¹。この反復的な改良プロセスが、本ツールの核心的な強みの一つである。

この「エージェント型」という性質と、特許情報とウェブ情報を反復的に参照しながら改良を重ねるというアプローチは、静的な検索アルゴリズムとは一線を画す、より動的で知的な情報収集・統合手法である。このプロセスは、専門家が調査を行う際に、直線的に情報を処理するのではなく、初期の発見に基づいて問いを立て直し、異なる情報源を参照し、段階的に理解を深めていく様に類似している。したがって、この反復的かつ多角的なアプローチは、特許情報を単独で分析したり、特許の文脈なしにウェブ情報のみを分析したりする場合の限界を克服し、「高精度リサーチ」を実現するために設計されたものと考えられる。

また、「簡単な入力」から複雑な段階的分析を開始できるという点は、必ずしも検索の専門家ではないユーザーにとっても、高度な特許調査をより利用しやすくすることを意図している。ただし、入力の質が結果の質を左右するという原則は依然として適用されるため、その「簡単な入力」の明確性や具体性が、最終的な「高精度リサーチ」の成果に影響を与える可能性は高い。このようなツールは、特許チームの能力を大幅に増強し、より広範な調査や特定分野の深掘りを可能にする一方で、IP 専門家には、AI の出力を戦略的に問いかけ、批判的に評価するという、進化するスキルセットが求められることを示唆している。

V. 詳細機能分析

「生成 AI 特許情報分析」は、そのエージェント型の特性を活かし、多段階かつ反復的なプロセスを通じて特許情報を分析する。

A. 動作メカニズム

1. **入力処理**：ユーザーは、調査したいテーマや技術の簡単な説明といったテキストベースの指示を GPT に与える¹。
2. **段階的調査**：「エージェント型」GPT は、受け取った指示を複数のサブタスクに分解して処理を進めるものと考えられる。これには、初期のキーワード抽出と特許データベース用の検索クエリ生成、ウェブ上での関連情報（製品、企業、非特許文献など）の並行的または連続的な検索、そして初期調査結果の分析を通じた重要概念・事業体・さらなる調査ポイントの特定などが含まれるだろう。
3. **反復的改良**：「往復しながらブラッシュアップする」というプロセス¹は、GPT が特許情報源とウェブ情報源を再訪し、検索クエリを改良したり、調査範囲を拡

大・縮小したり、情報を相互検証したりすることで、より完全かつ正確な全体像を構築していくことを示唆している。

B. 主要な能力

- **特許情報とウェブ情報の統合分析**： これらを個別のサイロとして扱うのではなく、統合して全体的な視点を提供する点が中核機能である¹。
- **検索クエリの自動生成（示唆）**： 本 GPT に特化した詳細な記述はないものの、角瀧氏が一般的な特許調査における AI 支援について、自然言語入力からの検索式生成に言及している点⁵や、他の特許検索用 GPT（例：野崎篤史氏の「特許検索式作成 GPT」¹³）の存在は、本 GPT も特許検索コンポーネントにおいて同様の能力を内包している可能性を示唆する。実際に、あるテーマ（例：「磁力で先端が浮上する橋」）を入力すると、GPT が検索概念（「磁力浮上」）を特定し、キーワードを展開する例が示されている⁵。
- **重要情報・洞察の抽出**： 単なる生データの提供に留まらず、分析された情報を提供することを目指している。例えば、RFID セルフレジの事例では、主要特許、その権利者、さらには潜在的な「技術的ホワイトスペース」まで特定しているように見受けられる¹。
- **多様な特許調査タスクの支援**： 「特許情報分析」という名称ではあるが、その能力は、角瀧氏が開発した他の GPT（例：「生成 AI 先行技術調査」²）が示すように、先行技術調査や一般的な特許理解の支援にも及ぶと考えられる。

C. 具体的な使用事例：「RFID セルフレジ」の分析

角瀧（つのぶち）氏は、「RFID セルフレジ」に関連する問い合わせに対する本 GPT の出力例を提示している¹。

ChatGPT 経由で共有されたこの出力例¹には、以下の要素が含まれているように見える。

- 関連特許（例：IBM 社の US20080211671A1）とその重要性の特定¹。
- 権利者（例：パナソニック、富士通）への言及¹。
- 発明の新規性や核心部分の分析¹。
- 「技術的ホワイトスペースと今後の展望」の特定（例：AI を活用した商品認識や不正防止策）¹。

この事例は、本 GPT が一般的なトピックから特定の特許詳細、競合状況の要素、そして将来展望の分析へと進む能力を有することを示している。

RFID の事例¹は、「生成 AI 特許情報分析」が単に関連特許のリストを提供する以上の機能を目指していることを明確に示している。このツールは、主要プレイヤー、発明の核心的概念、さらには将来のイノベーションの可能性のある領域（「ホワイトスペース」）を特定するなど、予備的な分析を実行する。これは、基本的な検索ツールからの大きな進歩である。複数の特許（IBM、パナソニック、富士通など）やウェブ情報源（「web 情報を往復」することから示唆される）からの情報を統合し、RFID セルフレジのような技術分野の包括的な概要（トレンドやホワイトスペースの特定を含む）を生成する能力は、「エージェント型」機能が効果を発揮する領域であろう。これは、散在する情報を結びつけることの重要性を示している。このようなツールは、技術ランドスケープ調査や競合情報収集の初期段階を劇的に加速させる可能性がある。ただし、AI による「ホワイトスペース」の特定や新規性の評価の正確性は、これらが複雑な判断を伴うため、依然として専門家による慎重な検証が必要となる。

表 1: 「生成 AI 特許情報分析」の主要機能と利点

機能	機能説明	利用者への主な利点	関連情報源例
エージェント型処理	ユーザーの簡単な指示に基づき、自律的に多段階の調査・分析を実行する。	より深い洞察の獲得、複雑なタスクの自動化	¹
特許・ウェブ情報の統合分析	特許情報とウェブ情報を個別に扱わず、統合して分析し、文脈に基づいた理解を促進する。	全体像の把握、より包括的な分析	¹
段階的調査	複雑な分析タスクを管理可能なステップに分解し、体系的に情報を収集・評価する。	分析プロセスの透明性向上、網羅的な調査	¹
シンプルな入力イン	専門的な検索知識が少ないユーザーで	非専門家によるアク	¹

ターフェース	も、自然言語に近い簡単な指示で高度な分析を開始できる。	セシビリティ向上	
反復的改良	特許情報とウェブ情報を繰り返し参照し、検索クエリや分析の焦点を調整することで、精度を高める。	より高精度な結果、発見的アプローチ	1
ホワイトスペースの特定（示唆）	既存技術の分析を通じて、未開拓の技術領域や市場機会を示唆する。	戦略的事業機会の発見、研究開発の方向性決定支援	1

VI. 技術的基盤とアクセス方法

「生成 AI 特許情報分析」の能力は、その背後にある AI モデルとアクセス可能なデータソースに大きく依存している。

A. 基盤となる AI モデル

本ツールは「GPTs」であるため、本質的に OpenAI の生成的事前学習済みトランスフォーマー（Generative Pre-trained Transformer）技術に基づいて構築されている¹⁵。

「生成 AI 特許情報分析」の基盤として使用されている具体的な GPT モデルのバージョン（例：GPT-3.5、GPT-4、またはそれ以降）は、提供された情報からは明確に特定されていない。角淵氏が特許調査における AI 活用全般に関して「ChaGP 6」や「Gemini 2.5 Pro」といったモデルに言及している記述はあるものの¹⁰、これが直接本 GPT に適用されているかは不明である。しかし、記述されている分析タスクを実行するためには、高性能な現代的モデルが活用されていると推測するのが妥当である。

B. 活用されるデータソース

- **特許情報**：本ツールが特許データにアクセスし分析することは明確に述べられている¹。接続先の具体的な特許データベース（例：J-PlatPat、Google Patents、Espacenet）は詳述されていないが、包括的な特許リポジトリへのアクセスが必要となる。出力例では Google Patents への言及が見られる¹。
- **ウェブ情報**：「WEB 情報」の活用が重要な側面として挙げられている¹。これは

広範であり、企業ウェブサイト、ニュース記事、技術ブログ、オンラインで入手可能な学術論文などが含まれ得る。

- **独自データ／アップロードデータ**：カスタム GPTs は「自社データ」を利用できると一般的に説明されている¹⁵。本 GPT に特化した記述はないが、これは GPTs フレームワークの一般的な機能である。角渕氏が開発した別の GPT 「侵害予防調査と無効資料調査のノウハウ～特許調査のセオリー～」は、氏自身の著作物に基づいており²、特定の知識ベースを活用していることがわかる。

C. アクセス方法

- **プラットフォーム**：ChatGPT 経由で利用可能である（chatgpt.com へのリンクが提供されている¹）。
- **利用条件**：
 - カスタム GPTs へのアクセスは通常、ChatGPT Plus のサブスクリプションを必要とする。ただし、「無料ユーザーでも GPTs が利用できるようになった」との情報もあるが¹³、一部 GPTs は利用が制限される可能性も示唆されている。
 - 「生成 AI 特許情報分析」の具体的なアクセス要件（無料か有料か、Plus 加入が必須かなど）は、提供情報からは断定できない。GPT ストアのページに繋がる可能性のあった情報源¹⁶ はアクセス不能であった。
 - 専門性の高いツールであることを考慮すると、プレミアムティアでの提供や、角渕氏による特定の共有権限設定がされている可能性も考えられる。
- **インターフェース**：対話はチャットベースのインターフェースを通じて行われ、「簡単な入力」を用いる。

「GPTs」であることは、このツールの利用可能性、性能、そして潜在的なコストが OpenAI のプラットフォームとポリシーに連動することを意味する。OpenAI によるいかなる変更も、「生成 AI 特許情報分析」のユーザーに直接影響を与える可能性がある。強力ではあるものの、基盤となる大規模言語モデル（LLM）が情報を処理する正確なメカニズムや、アクセス可能なウェブデータソースの全範囲は、ある程度不透明（「ブラックボックス」）であり得る。機密情報を扱う特許専門家にとって、

ChatGPT 環境内でのデータ処理と機密性について理解することは極めて重要である。

「東京 AI」によるセキュリティを担保した「プライベート特許検索」ツールへの言及⁵は、この一般的な懸念を浮き彫りにしている。したがって、ユーザーは、機密性の高い特許業務にこのようなツールを使用する際には、入力する情報やプラットフォーム

（ChatGPT）の一般的なデータプライバシー／セキュリティポリシーに留意する必要がある。

VII. AI 特許ツールエコシステムにおける位置づけ

「生成 AI 特許情報分析」は、既存の AI 支援型特許ツール群の中で、独自の位置を占めている。

A. 「サマリア (Summaria)」との比較

角淵 (つのおち) 氏は、特許調査において「サマリア」と生成 AI を併用することについて講演している⁵。「サマリア」は「特許文献読解支援 AI アシスタント」とされ¹⁷、キーワードのハイライト、発明要点の要約、文献内容に関する Q&A、製品仕様との関連性や差異を評価することによるクリアランス／侵害調査のスクリーニング支援といった機能を持つ¹⁸。

「サマリア」が特定の特許文献の詳細な読解と比較分析に深く焦点を当てているのに対し²⁰、「生成 AI 特許情報分析」は、より広範な特許情報およびウェブ情報から情報を発見・統合し、あるトピックやテーマに関する分析的概要を構築するという、より広いスコープを持つように見受けられる。

これらは補完的な関係にあり得る。「生成 AI 特許情報分析」が主要な特許や関心領域を特定し、その後「サマリア」を用いてそれらの特定文献を詳細に分析するという活用法が考えられる。角淵氏自身も、「サマリア」を初期スクリーニング後の精読のための「相棒」として位置づけている²⁰。

B. 野崎篤史氏の「イーパテ Chat」との比較

角淵 (つのおち) 氏は、特許スクリーニングにおける生成 AI 活用に関する記事で、野崎篤史氏の「イーパテ Chat」（「特許検索・特許分析に関する GPTs」内）を特許検索・分析ツールとして参照している⁴。

「イーパテ Chat」は、特許調査の教科書（「青本」「赤本」）や野崎氏自身の著作物を学習データとしており、特許調査・分析や IP ランドスケープに関する質問応答に特化している¹³。野崎氏は他にも「特許検索式作成 GPT」や「特許分析軸作成 GPT」といった専門 GPTs を開発している¹³。

「イーパテ Chat」がその学習データから得た確立された特許調査・分析手法の活用に重きを置いているのに対し、「生成 AI 特許情報分析」は、その「エージェント型」の反復的なウェブ／特許情報統合により、より動的で探索的なリサーチ能力を提供する可能性がある。両者とも、IP 専門家による特化型 AI アシスタント開発の取り組みを代表するものである。

C. 「生成 AI 特許情報分析」独自の価値提案

本ツールの独自の価値は、以下の点に集約される。

- 段階的かつ反復的な調査を可能にする「エージェント型」の性質。
- 特許データとウェブデータの両方を活用し、「往復しながら」改良を行うことによる、高精度で文脈に即した分析¹。
- 「簡単な入力」から、「ホワイトスペース」の特定を含む比較的洗練された分析結果を導き出す能力¹。

角淵（つのぶち）氏や野崎氏による複数の特化型 GPTs や「サマリア」のようなツールの存在は、AI ツールエコシステムの出現を示唆しており、各ツールが特許調査・分析の異なる側面に秀でている可能性がある。専門家は、これらのツールを組み合わせる使用能力が求められるようになるかもしれない。角淵氏が「サマリア」を詳細読解の「相棒」と表現していること²⁰や、実務課題支援ツール開発という彼のアプローチは、人間と AI の協調モデルを示している。AI が手間のかかるデータ収集や初期分析を担い、人間の専門家が戦略的指示を与え、結果を検証し、より高次の法的・技術的判断を下すという分業である。これは、AI が人間に取って代わるのではなく、人間の能力を拡張するモデルである。

VIII. 戦略的利点と実用的考察

「生成 AI 特許情報分析」は、IP 専門家にとって多くの戦略的利点を提供する一方で、その効果的な活用にはいくつかの実用的考察が伴う。

A. IP 専門家にとっての利点

- 効率性の向上：調査・分析プロセスの一部自動化により、大幅な時間節約が期待できる（一般的な AI の利点であり、「サマリア」の事例でも時間短縮効果が示されている¹⁹）。
- 分析能力の深化：ウェブ情報と特許情報の統合、および反復的改良により、従来手法では容易に得られなかった、より包括的でニュアンスに富んだ洞察が得られる可能性がある¹。
- 「ホワイトスペース」／機会の特定：RFID の事例が示すように、未開拓の技術分野や市場機会の特定に貢献し得る¹。
- 複雑な技術の理解促進：情報を統合することで、専門家が発明の本質とその競合的文脈をより迅速に把握するのを助ける。

B. 限界とベストプラクティス

- **入力の質**：「簡単な入力」であっても、十分に考慮されたものである必要がある。曖昧または不適切に構成された問い合わせは、最適とは言えない結果につながる可能性が高い（一般的な LLM の原則）。
- **「ハルシネーション」／正確性**：生成 AI は、もっともらしいが不正確な情報（「ハルシネーション」）を生成することがある。全ての出力、特に新規性、侵害、ホワイトスペースに関する主張は、人間の専門家によって批判的に評価・検証されなければならない（角淵氏自身、AI の出力を鵜呑みにすべきではないと述べている²⁰）。
- **データの偏りと最新性**：AI の知識は、その学習データとアクセス可能なデータに基づいている。偏りが存在する可能性や、最新の非公開情報を持たない可能性がある。特許データ自体にも公開の遅延がある。
- **過度の依存とスキル低下**：AI の仕組みを理解せず、または中核的な分析スキルを維持せずに AI に過度に依存することはリスクとなり得る。
- **機密性**：クラウドベースの AI を機密性の高い未公開情報に使用する際には、データセキュリティとプライバシーを慎重に考慮する必要がある（安全な検索に関する言及⁵）。
- **プロンプトエンジニアリング**：このような GPTs の効果的な使用には、しばしば「プロンプトエンジニアリング」のスキル、すなわち AI を望ましい出力に導く入力を作成する技術が求められる（プロンプトに関する一般的な議論⁴）。角淵氏自身もプロンプトの作成と共有について執筆している¹⁰。
- **段階的なタスク分解**：角淵氏は一般的な文脈で、特許調査のような複雑なタスクで AI が効果を発揮するためには、業務プロセスをより小さく管理しやすいステップに分解することが重要であると指摘している⁵。この原則は、氏の GPTs との対話方法やプロンプト設計にも適用される可能性が高い。

「生成 AI 特許情報分析」の高度な能力にもかかわらず、出力の検証、戦略的文脈の提供、最終的な判断を下す上での人間の専門知識の必要性は依然として最重要である。このツールは能力増幅器であり、代替物ではない。このような AI ツールを効果的に使用するには、高度なプロンプトエンジニアリング、AI の限界の理解、AI が生成した洞察をより広範な IP 戦略に批判的に統合する能力など、新しいスキルが必要となる。このことは、IP 実務家のための研修や専門能力開発プログラムに、AI リテラシー、プロンプトエンジニアリング、倫理的な AI 利用に関するモジュールを組み込む必要性を示唆している。焦点は、手作業によるデータ処理から、より高次の戦略的思考と AI の監督へと移行する。

IX. 結論と将来展望

角淵由英（つのおちよしひで）氏が開発した「生成 AI 特許情報分析」は、特許専門家にとって革新的なツールであり、その中核的な能力、目的、そして意義は注目に値する。エージェント型の処理、特許情報とウェブ情報の反復的な統合、そして簡単な入力から分析的洞察を引き出す能力は、本ツールの際立った特徴である。

このツールは、特許調査および分析のワークフローに大きな影響を与える可能性を秘めている。効率性の向上、より深い洞察の獲得、そして高度な分析能力の民主化が期待される。また、ドメイン専門家によって開発される特化型 AI ツールという、より広範な知的財産分野におけるトレンドを体現するものでもある。

将来的な展望としては、このような GPTs のさらなる機能強化（より洗練された分析モジュール、より多くのデータソースとの統合、透明性の向上など）や、特許実務における人間と AI の協調モデルの継続的な進化が考えられる。

効果的な活用のための提言：

- 分析の明確な目的設定から始めることを強調する。
- 初期出力に基づいた反復的な対話とクエリ改良の重要性を力説する。
- AI が生成した全ての調査結果に対する批判的評価と専門家による検証の必要性を再確認する。
- ツールの挙動を理解するために、まずは機密性の低いテストケースでその能力を探ることを推奨する。
- 角淵氏の研究活動や知的財産分野における AI の広範な動向は急速に進展しているため、常に最新情報を入手することを提案する。

「生成 AI 特許情報分析」のようなツールは、単なる漸進的な改善以上のものを表しており、特許情報へのアクセス、分析、そして戦略的意思決定への活用方法におけるパラダイムシフトの一翼を担っている。特許分析の未来は、人間の知性と AI の能力との相乗的なパートナーシップによってますます特徴づけられるであろう。この進化する状況の中で成功するためには、IP 専門家にとって継続的な学習と適応が鍵となる。角淵氏のような実務家自身によるこのようなツールの開発は、実用的な関連性を確保し、現実世界のニーズに対応することで、この進化を加速させる可能性が高い。

引用文献

1. 生成 AI 特許分析 GPTs の使い方 | 角淵由英（つのおちよしひで） - note, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://note.com/tsunobuchi/n/n8420871afe23>
2. 特許実務 GPTs 集 | 角淵由英（つのおちよしひで） - note, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://note.com/tsunobuchi/n/nfb1181619fa8>

3. AI を活用した特許調査・特許分析のソリューションと知財戦略 | FRONTEO, Inc., 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://kibit.fronteo.com/solution/patent-search/>
4. 特許文書の読み方 (7) 生成 AI をスクリーニングに活用する方法 ..., 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://chizai-jj-lab.com/2025/03/04/0302-2/>
5. 特許調査における生成 AI、サマリアの活用方法【角渕由英 先生】【サマリアウェビナー】 - YouTube, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=nI0iicsXLFg>
6. 角渕由英 (つのおちよしひで) - note, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://note.com/tsunobuchi>
7. 退職エントリ | 角渕由英 (つのおちよしひで) - note, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://note.com/tsunobuchi/n/n0bb0c99df96d>
8. 弁理士博士 (理学) 角渕由英 Yoshihide Tsunobuchi 拠点: 東京, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://lexceed.or.jp/professionals/tsunobuchi-yoshihide/>
9. 角渕由英 lit.link - リットリンク, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://lit.link/ytsunobuchi>
10. 特許実務×生成 AI プロンプト集 | 角渕由英 (つのおちよしひで) - note, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://note.com/tsunobuchi/n/n17982922130d>
11. 特許調査における生成 AI、サマリアの活用方法 - よろず知財戦略コンサルティング, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://yoroziupsc.com/blog/ai2587521>
12. 生成 AI 先行技術調査 GPTs の使い方 | 角渕由英 (つのおちよしひで) - note, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://note.com/tsunobuchi/n/nf5b930446d90>
13. 特許検索・特許分析に関する GPTs | 野崎篤志@イーパテントー知財 ..., 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://note.com/anozaki/n/n238e25e25436>
14. 生成 AI を使って特許検索式を作成する - 特許検索式作成 GPT の使い方 - note, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://note.com/anozaki/n/nd499a884e9ad>
15. ChatGPT に自社データを学習させる GPTs とは? 何ができる? 活用例、注意点徹底解説!, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://ai-market.jp/technology/chatgpt-learns/>
16. chatgpt.com, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://chatgpt.com/g/g-6820a5a16bd88191bc3cbbdf8fbbf1ff-sheng-cheng-aite-xu-qing-bao-fen-xi>
17. 特許文書のアップロード | 特許文書読解アシスタント・サマリア, 5 月 25, 2025 にアクセス、https://patent-icom/summaria/manual/upload_document
18. 特許読解アシスタント「サマリア」に知財実務を支援する革新的な 3 つの機能が追加【サービス無料提供中】 | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース - PR TIMES, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000086119.html>
19. サマリア(Summaria) | 特許文書読解支援サービス - パテント・インテグレーション, 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://patent-icom/summaria/>
20. サマリア (Summaria) を用いた侵害予防調査のスクリーニング | 角 ..., 5 月 25, 2025 にアクセス、<https://note.com/tsunobuchi/n/n915359c4bee7>
21. 【AI で業務効率化】 土業向け ChatGPT 活用事例 - BizTechDX, 5 月 25, 2025 に

アクセス、

<https://biztechdx.com/%E3%80%90ai%E3%81%A7%E6%A5%AD%E5%8B%99%E5%8A%B9%E7%8E%87%E5%8C%96%E3%80%91%E5%A3%AB%E6%A5%AD%E5%90%91%E3%81%91chatgpt%E6%B4%BB%E7%94%A8%E4%BA%8B%E4%BE%8B/>